

「次世代を担う子らによるくにたち会議」開催を求める意見書

2015.08.28

国立市第5期総合計画基本構想審議会委員

中島 大介

先に示された資料にもあるように、人口縮減時代において、持続可能なまちづくりをどこの自治体も目指しています。また、インフラの更新期を迎える中で、現状のままでは文化施設、福祉施設の存続も危うい事態を招きかねない状況にあります。

地方分権を迎え、選択と集中が叫ばれる中、私達は様々な政治的、行政的道具を活用してこの難局を乗り越えていかなければなりません。

市民参加や公民連携など住民や民間と協働して、持てる智恵や力をより集め、国立総動員での市政運営が求められるところです。

しかし、手法は進化するものの、協働・参画・連携といったそれら道具を使う住民、企業、議会、行政は効率的かつ最大限にその効力を発揮し、まちの運営に寄与しているとは言えないのではないのでしょうか。

総合計画においても、次世代に向けた取り組みは多々あるかと思いますが、次世代とされる子ども達が主体的にまちづくりに関心を持ち、参画していくことで、よりよい持続可能なくにたちのまちづくりができるのではないかと考えます。

ついては、「次世代を担う子らによるくにたち会議」の開催を求め、中高生がどのような国立に住みたいのか、いまどのような課題を抱えているのかに耳を傾け、5年、10年後の国立市政に関与できる取組みを提言します。

要望する会議は本総合計画策定に資するだけでなく、四年ごとの改訂時においても開催し、広く意見を求めることで、子どもを通して大人たちにも市政に関心を持ち、自ら選択をしていくことを促し、もって様々な局面における難課題を解決していくきっかけとなると考えています。

開催については多様な子どもらが参加しやすい会議となりますよう配慮いただきますようお願い申し上げます。

大変、過密なスケジュールの中ではありますが、ご一考賜りますようお願い申し上げます。

実施事例：千葉県市原市 いちはら未来ワークショップ
：立川市 夢育て・たちかわ子ども21プラン推進会議
：智頭町 百人委員会